

保久良三人衆

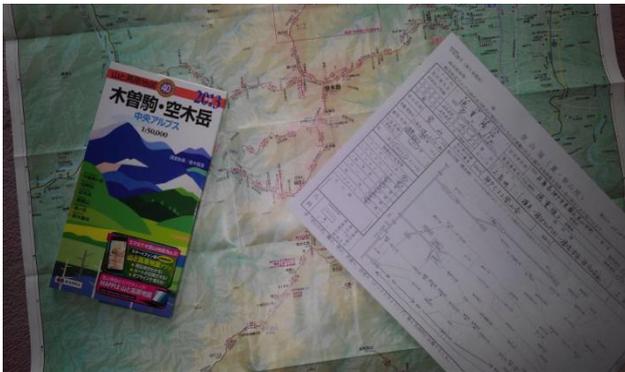


木曾駒ヶ岳・宝剣岳 山行日記

保久良支部 小堺忠史

去る8/28(金)~8/30(日)、車中1泊、テント1泊で木曾駒ヶ岳・宝剣岳に行って参りました。

今回の山行は、どうしてもどこかの山に行きたい曾谷さんの発案で、週末の天気予報を見て、日程を自由に決められるように予約が必要な山小屋には泊まらず、金曜日の定時後出発とし、時間の制約が少ない自家用車で移動するという方針で計画が進みました。



ガイドマップ、登山届出書、それから・・・？

ガイドラインはざっくりですが、ブランド名の通っている山に登りたい曾谷さん、小堺の要望を取り入れ、徳重隊長提案の木曾駒ヶ岳・宝剣岳に行くことになりました。

3000m級の山、テント泊が初めての曾谷さん、小堺のことを考え、行き足の短い(中央アルプスでも最も近い)、足で登る高さが少ない(ロープウェイで2600mまで連れていってくれる)木曾駒ヶ岳、宝剣岳になったものと考えます。徳重隊長は、几帳面で理論派で、今回の行程、装備計画他すべて徳重隊長作成によるものです。隊長作成の山行計画書を見て、楽観的な小堺もお二人を誘い保久良神社でテント張りの練習を行い、装備を揃えて(借りて)、当日を迎えまし

た。

8/28(金)19:00 曾谷さん、19:10 徳重さんをピックアップし、いざ出発です。

名神西宮ICから高速に乗り、大津ICで食事し、中央道中津川SAでトイレ休憩をして中央道駒ヶ岳SAに着いたのが23:45で、あと15分でETC深夜割引(30%OFF)になるので、翌朝3:30までSAで休憩(仮眠)を取ることにしました。

8/29(土)3:30 駒ヶ岳SAを出発し、5分で駒ヶ根ICに到着し、高速を下り、下道を走ること5分で、菅の台バスセンター到着。到着するとすぐにバス・ロープウェイのチケット売り場並びとバス乗車席取に分かれて列に並びました。曾谷さん情報のおかげで、チケット売場は2番手、バスは出発をゲットでき、順調なスタートとなりました。

6:20 菅の台バスセンター出発(人が多く、10分早く運航開始)。ロープウェイしらび平駅まで約30分景色の良い山道を走りますが、下名、珍しくSAでの休憩中に寝れなかったので一切記憶にありません。

ロープウェイしらび平駅に着くと、すでにみなさん“我先モード”に入っており、まわりの景色には目もくれず、ロープウェイに乗り込みました。(ロープウェイも出発に乗車でき順調。順調。)



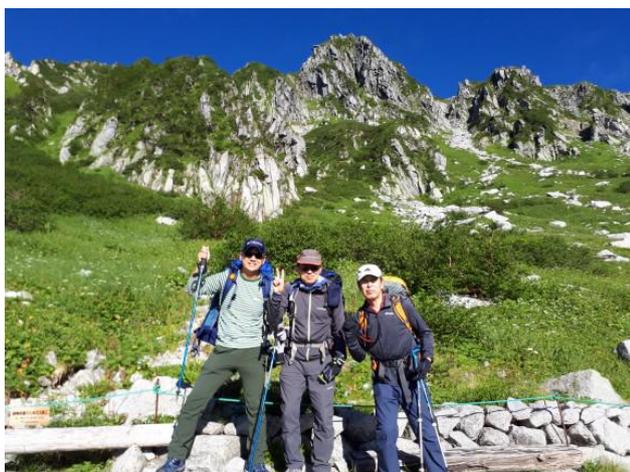
千畳敷からの絶景！！

7分の乗車で、7:00 過ぎにはロープウェイ千

畳敷駅(標高 2612m)到着。千畳敷駅を出ると、そこは絶景でアルプスの少女ハイジの世界で、ついついのけぞってしまいました。(例えば幼稚でスママセン)

いざ登山開始と気分が高まりましたが、徳重隊長より「まずは、高度に順応するように、ゆっくり体操でもしてから登ろう。」との忠告により、すばらしい景色をパチパチ撮って高度に順応しました。

7:20 登山開始です。最高の天気で、どの方向を見ても日本でないような最高の景色でした。



向って右からヤジさん キタさん ヒヨコさん！

しばらく歩くと、目の前に宝剣岳が見えてきました。3人での写真を撮ってもらおうと、近くにいた女性2人組に声をかけ、写真を撮ってもらい、登山再開しようとしたとき、曾谷さんより「財布が落ちてますよ。」と神の声。それは、写真撮ってもらうためにザックからスマホを取り出した際に落ちた“私の財布”でした。



乗越浄土にて(地獄と極楽の分かれ目??) 曾谷さんに気付いてもらえなかったら、その後の登山が台無しになるところでした。皆さんも落とし物には十分気を付けましょう。



中岳(2925M)にて

8:00 宝剣山荘到着。中岳を經由し、頂上山荘(テント場)到着、テント設営後、8:30の受付開始を待って受付。(ここまで、小堺財布落とし事件以外は順調。順調。)荷物をテントに置き、身軽にして9:00 テント場を出発。いざ宝剣岳へアタック。



宝剣岳(2931M)山頂にて

宝剣岳は標高 2931m の険しい岩場の山で、どこから見ても鋭く尖り、綺麗な三角錐の山で、人を寄せ付けない雰囲気があり、頂上付近の鎖場から足元をみると、ぶるっとしました。頂上付近は上下交互通行のため、渋滞はあるも

のの無事登頂。



岩場の下りは焦らず慎重に！！

頂上は座布団 1 枚程度の広さで、360 度視界が開けていて、とても頂上に立てず、ビビって手前で撮影してしまいました。次の登山者が待機しており、撮影したら早々に宝剣岳を後にし、下りの鎖場へ、そこは一步間違えれば、数百m 滑落の危険な場所で緊張が高まります。手袋を外し、集中して無事下山。ホッと一息。その時食べたダイエーで買った 6 個で 135 円の大福は最高でした。

テント場に戻り、昼ご飯を食べても 11:00 過ぎで、夜まで何もすることもなく、且つ、次の日(8/30)の天気が下り坂の予報だったので、引き続き木曾駒ヶ岳もアタックすることにしました。

予定を繰り上げ、木曾駒ヶ岳へアタック。



木曾駒ヶ岳（2956M）山頂ゲット！！

木曾駒ヶ岳は、標高 2956m の木曾山脈の最高

峰で日本百名山にも選定されている名山ですが、テント場の裏山って感じで、自宅から保久良神社より近くに感じました。約 20 分で登頂。山頂には神社があり、平らで広い場所には、たくさんの方がごった返してました。順番を待っての参拝を終え、山頂で残り的大福を食べました。登頂後の大福は格別です。



ビールで乾杯！・・・は私一人でした！

目的の 2 座を登頂し、再びテント場に戻ったのが 13:00 過ぎで、既にやることができなくなり、ビールで祝杯。気が付いたらテントでウトウトして寝ていました。

その後、なにやら激しい喧嘩の声で目覚めました。怒っていることは伝わるものの内容が全く入ってきません。冷静になって耳を傾けると隣のテントの中国人カップルが喧嘩している声でした。喧嘩はヒートアップするも、せっかくのテント泊なので、気分を取り直して、やま COOKING を開始します。



無駄のない名コックぶりのリーダーです！

徳重隊長のスタンスの“水は貴重で、ゴミは最

小限、無理しない範囲でたのしく、おいしく、満喫する”に徹して、本日の夕食はアルファーマにレトルトカレー、卵スープにサラダです。



神戸ビーフ?入り・・・と思って食べました!

食べる順番もよごれるものを先に食べ、食べるにつれて食器をきれいにする食べ方で、カレーライス→サラダ(サラダでできるだけ食器をきれいにする)→少量のお湯で濯ぎ、巻紙で拭き上げ、食べ終わるときには食器はきれいになっている作戦を実践し、大満足のゆうげでした。

19:00頃、隣の中国人カップルの喧嘩が激しさを増す中、我介せずで19:00就寝。お腹も満たされ、程よい疲れもあり、秒速で爆睡しました。

寝るときは暑くて、寝袋をお腹にかけて寝ましたが、朝には寒くてすっかり寝袋に包まって寝ていました。

最終日3:30、テントの中で誰ともなく起きている気配を感じて起床。(下名が最後に起きた?)

外は肌寒く、上着を羽織り、テントを出ると、この山行で何回のけぞったかわかりませんが、360度遮るものが全くない満天の星空でした。スマホで何枚も写真を撮りましたが、スマホではうまく写せず、言葉でしか伝えられないのが、残念です。

日の出時刻は5:19で、テントの中で超早朝の

朝食をとり、出発の準備を終えたのは、まだ5:00前。再びテントの外に出ると、空は明るくなり、眼下には雲海が広がってます。またもやスマホ連写状態。



雲海の上にご来光。あ～ありがたや、ありがたや!!

そうこうしている間に雲海からのご来光で、さらにスマホ連写状態。

無事、5:19ご来光を拝み、早々にテントを撤収し、5:30下山開始。

3:30起床→星空→朝食、後片付け→雲海→ご来光→撤収→5:30下山開始。日常の生活では考えられない時間軸で、内容の濃い時間となりました。

前日の予報を見事に裏切り、最終日もピーカン。荷物は軽くなり、あとはゆっくり下山するだけです。千畳敷カールを経由し、ロープウェイ千畳敷駅に到着。



お土産に買った記念バッジ



以上

今回の山行は感動の連続で、もう一つの目的であるブランド山での買い物を忘れており、ロープウェイ千畳敷駅が最後のチャンスと思い、売店へ行ったところ、まだ8:00前で開店前だったのですが、既に開店していたレストランに回り、開けてほしいとお願いしたら気持ちよく開けて頂き、バッチと手ぬぐいを購入し、この山行のテーマは、自分たちが持ち込んだものだけ(ビールを除く)で、登山・テント泊をすることで、飲用水以外に各自2Lの水を背負って臨みました。然し、テント場には、水道もあり、トイレもきれいでトイレトーパーも置いてあり、快適でした。(我々は意地はって、背負ってきた水を使いました。)



今回、下名の財布落とし事件、中国人カップルの喧嘩以外は、アクシデントもなく、近くの温泉に浸かり、名物のソースかつ丼を食べ、帰路渋滞もなく、無事帰宅。(但し、帰宅時だけ激しい夕立に遭遇。)

今回、すっかり、テント泊での登山にはまってしまい、次の山行の計画を企てる自分がいます。今後も奥さんの顔色を見ながら道具を揃え、段階的に山のレベルをあげていきたいと思っています。